【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第１区分
【発行日】平成21年7月2日(2009.7.2)

【公開番号】特開2007-302535(P2007-302535A)
【公開日】平成19年11月22日(2007.11.22)
【年通号数】公開・登録公報2007-045
【出願番号】特願2006-134650(P2006-134650)
【国際特許分類】
Ｃ０１Ｂ　31/02　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０１Ｂ　31/02　　１０１Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成21年5月15日(2009.5.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
細孔径１０～１０^{3}ｎｍの細孔の累積細孔容積が、３０００ｍｍ^3／ｇ～４０００ｍｍ^3／ｇである紙炭。
【請求項２】
紙類を過熱水蒸気中で炭化した紙炭であって、細孔径１０～１０^{3}ｎｍの細孔の累積細孔容積が、３０００ｍｍ^3／ｇ～４０００ｍｍ^3／ｇである紙炭。
【請求項３】
タール除去剤として用いる、請求項１または２に記載の紙炭。
【請求項４】
紙類を水で湿潤させて成形する工程と、
前記乾燥させた紙類を過熱水蒸気中で炭化する工程と
を含む紙炭の製造方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００４】
しかし、特許文献１に記載のパーパー炭は、タール分の残留をなくすために、６５０～８００℃（９２３～１０７３Ｋ）で炭化する。加熱温度を上昇させているため、コスト高になるという問題がある。また、特許文献１に記載のパーパー炭は、ホルムアルデヒド、トルエン、アンモニア等の比較的分子量の小さい物質をガス中での吸着能をみているに過ぎない。